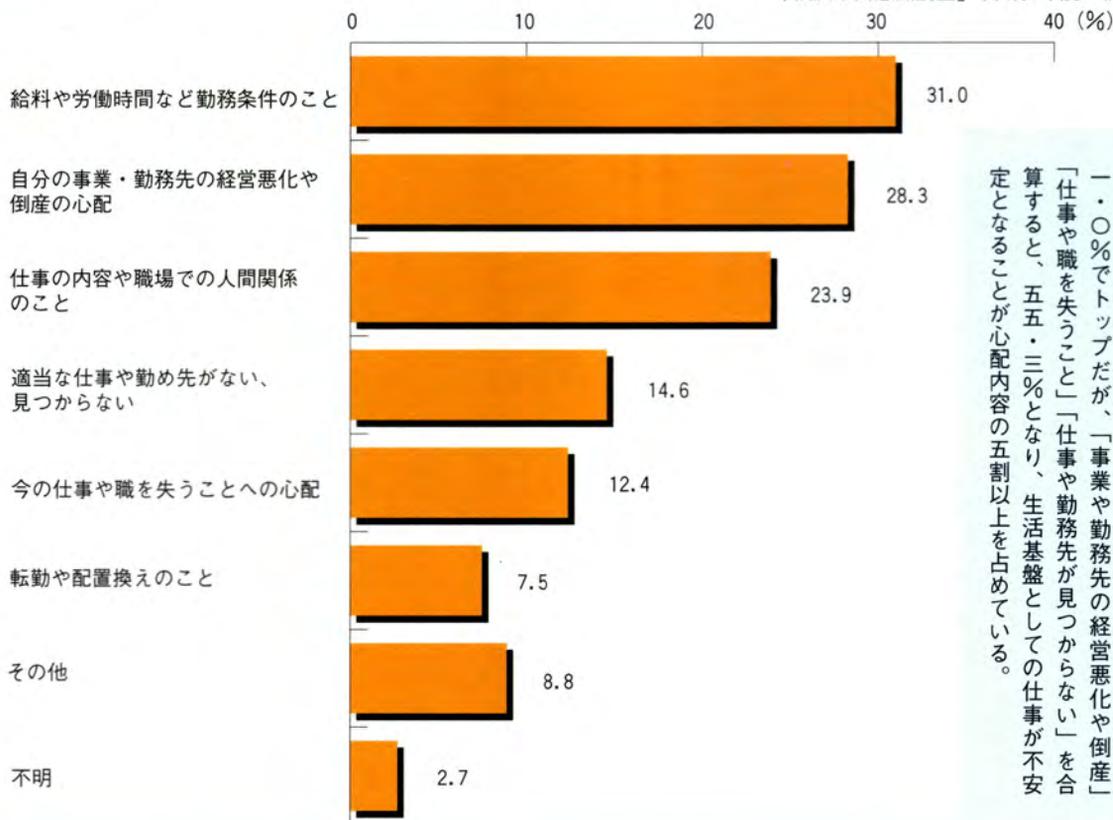


仕事・職場の心配ごと

・「仕事・職場」に関する心配ごとの内容は「勤務条件」が三
一・〇％でトップだが、「事業や勤務先の経営悪化や倒産」
「仕事や職を失うこと」「仕事や勤務先が見つからない」を合
算すると、五五・三％となり、生活基盤としての仕事不安
定となるのが心配内容の五割以上を占めている。

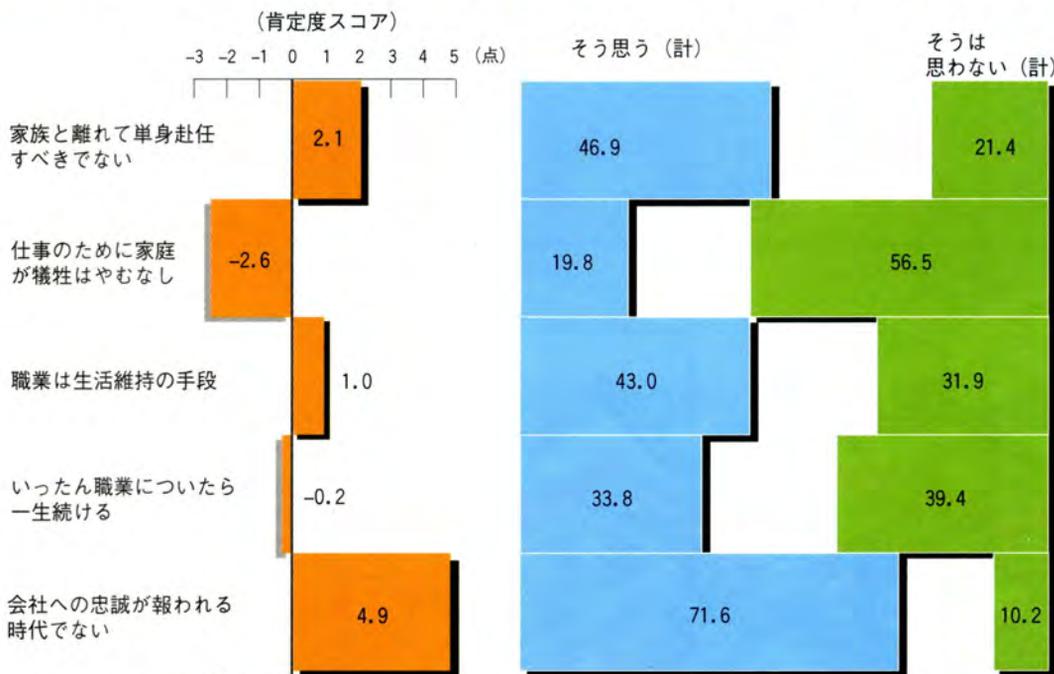
仕事・職場に関する心配ごとの内容 (複数回答)

「横浜市民意識調査」(平成8年度・横浜市)



職場・仕事に関する考え方

「横浜市民意識調査」(平成8年度・横浜市)



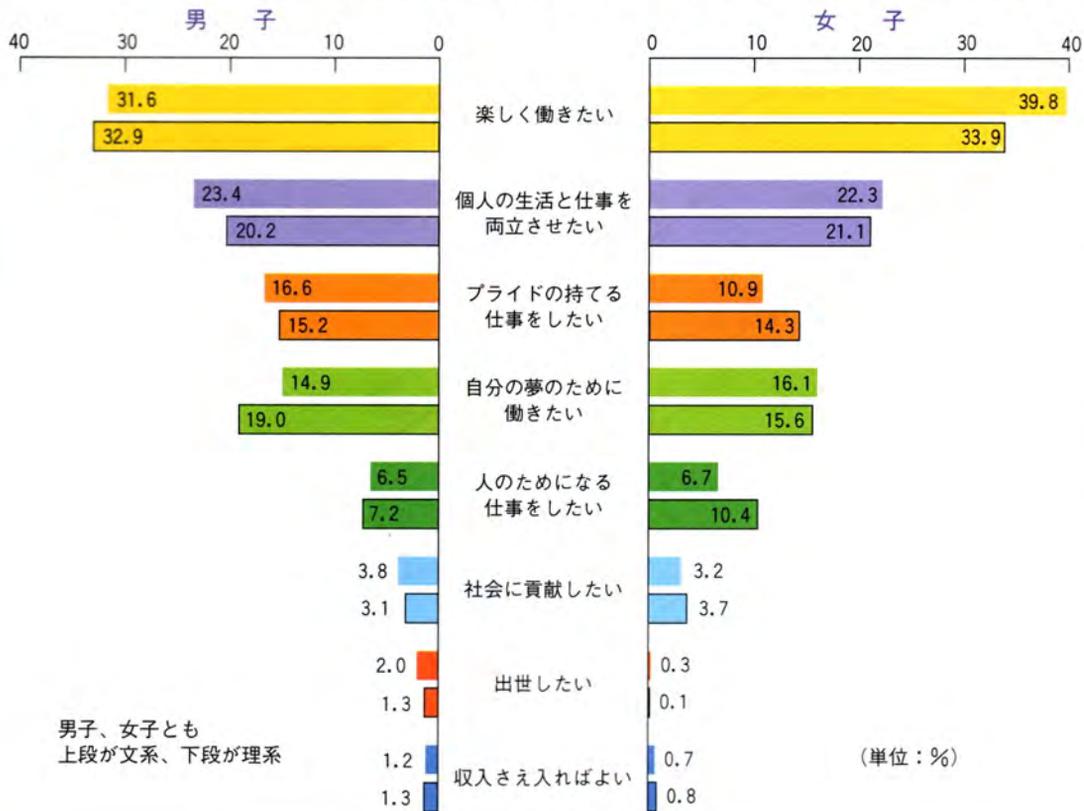
※肯定度スコア=次の配点の平均
 まったくそう思う +10点
 どちらかといえばそう思う +5点
 どちらともいえない(わからない) 0点
 どちらかといえばそう思わない -5点
 まったくそうは思わない -10点

(単位: %)

・職場・仕事に関する考え方のうち、「会社への忠誠心が報われる時代ではない」肯定派は七割以上に達している。
 ・「仕事のために家庭が犠牲はやむなし」という考え方については、五六・五％の人が否定的であった。

就職観

「1996年度全国大学生人気企業ランキング及び意識に関する調査」(平成8年・毎日コミュニケーションズ)

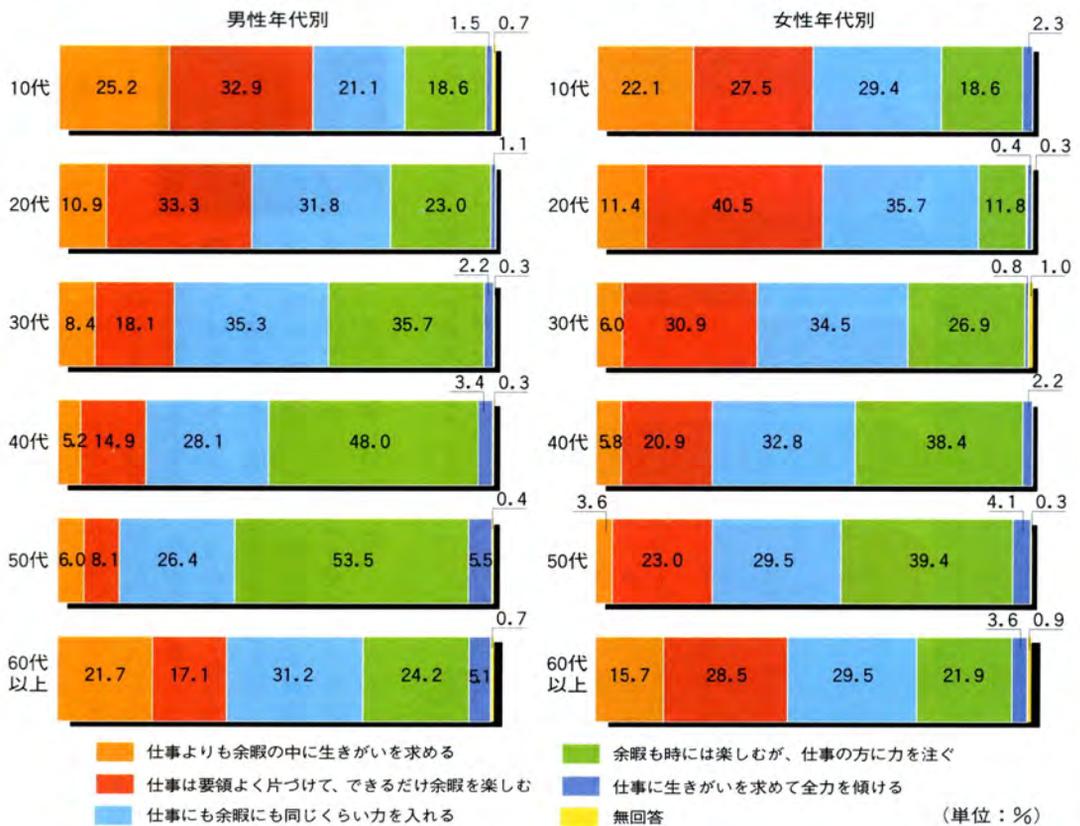


・就労観については、男女とも新規卒業生の三割以上が「楽しく働きたい」と回答している。
 ・一方、「プライドの持てる仕事をしたい」は男女とも二割以下、「出世したい」は女子では一割未満、男子でも二割以下であった。

仕事と余暇のどちらを重視するか

「レジャー白書'96」(平成7年・余暇開発センター)

・「仕事と余暇のどちらを重視するか」の選択について、男性では「余暇も楽しむが仕事の方に力を注ぐ」が年代ごとに上昇し、五十歳代で半数を超えるが、六十歳以上になると半減している。

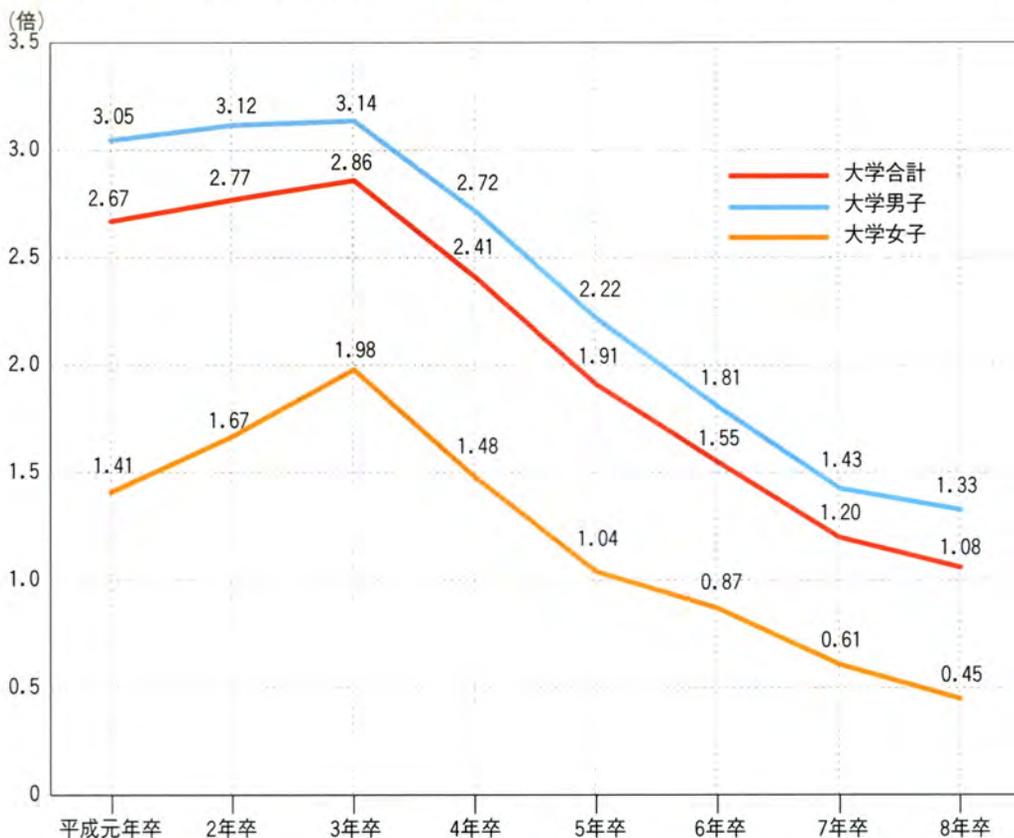


若者と仕事

大学卒求人倍率の推移

「求人倍率調査」(平成8年・リクルートリサーチ)

・大学卒求人倍率は、平成三年をピークに年々低下しており、平成八年卒業生では全体で一・〇八、男子一・三三、女子〇・四五となっている。



平成9年度の新卒採用計画

(平成8年・日本経済新聞)

	採用確定社数	平成9年度伸び率 (%)	平成8年度伸び率 (%)
総合計	526	12.4	▲ 3.8
大卒計	568	24.0	2.6
文系	554	22.9	4.7
理系	422	34.1	2.6
短大・専門学校卒計	457	14.5	▲ 9.9
高卒計	498	▲ 0.2	▲ 17.2

(注) 平成8年度の伸び率は前年度の集計対象になった企業について算出。文・理系の伸び率は内訳を表された企業のみ集計

・平成九年には新卒採用計画の対前年伸び率は全体で二・四%、大卒では二・四・〇%を示し、マイナス伸び率となったのは高卒区分のみであった。



インタビュー

船山智成さん

フリーター

25歳 港南区在住

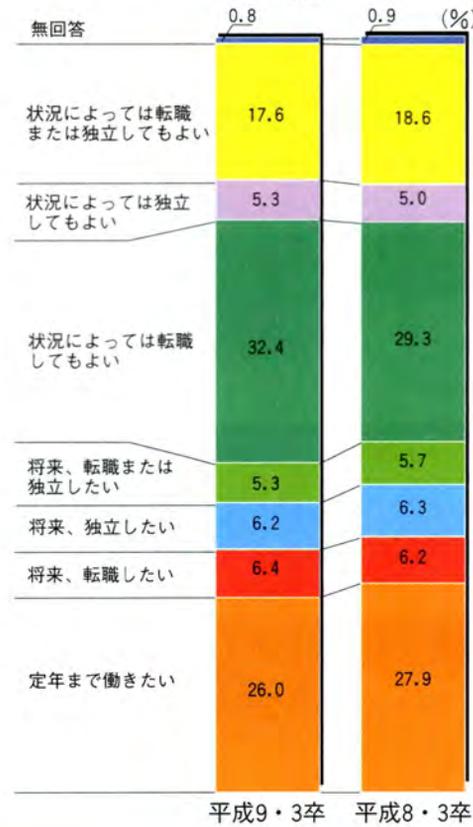
■ 専門学校で二年間、自動車デザインの勉強をしたんですが、卒業する時にはバブルがはじけていたんです。結局、そのままフリーターになって、今は二つのバイトを掛けもちしています。

■ 好きなことをやって生きるか、お金だけもらえればいいやという生き方をするのか、どっちを取るかというのをずっと考えているんです。好きなことをやって、ある程度お金がもらえて生きていくのなら、それは素晴らしいことだと思いますが、今の景気を考えると、なかなか難しいですね。

■ 今の就職難も、そのへんがあるんじゃないですか。名の知れた会社に行く人なんて、ほんのひと握りだと思うのに、皆がそこを目指してしまっているから。あまりぜいたくを言っていると、それは難しいですね。

勤続意向

「'97年3月卒大学生の就職実態調査」
(平成9年・リクルートリサーチ)



・入社予定会社での勤続意向をみると「定年まで働きたい」は二六・〇％で、四人に一人以上の割合、前年度より一・九ポイント減少する結果になっている。

君のような一匹狼と違って、僕のように組織でしか働けない人間もいるんだ。でも、組織にドブプリつかる気はない。というのは、昔はワーカー、つまり労働者だったけど、今はプレーヤーの時代だと思ってるんだ。常に、自分の能力を買ってもらおうという感じかな。もちろん、仕事が生生活の手段だというのは変わらない。

今やってる課の仕事は純然たる飛び込み営業なので、将来どこへいってもツプシがきくと思ってる。転職とか独立とかを考えたら、今のうちに顔を上げておいて損はない。実際に、引き拔きの話もある。今の会社に骨を埋めようとは思っていないけど、自分が納得できるところまではプレーしようと思う。

バブルの絶頂期に入ったので、甘いヤツと言われるかも知れないが、僕は最近、こんなふう考えている。

たまには、君のおんぼろ車でプラッつと温泉にでも出かけて、いつも積んであるらしいバスタオルとシャンプーを活用しようか。

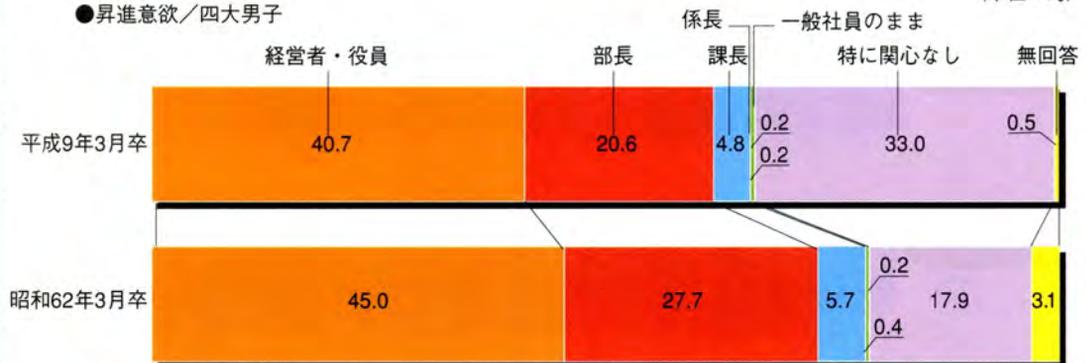
(鶴見区 K・Mさん 二一八歳)

昇進意欲

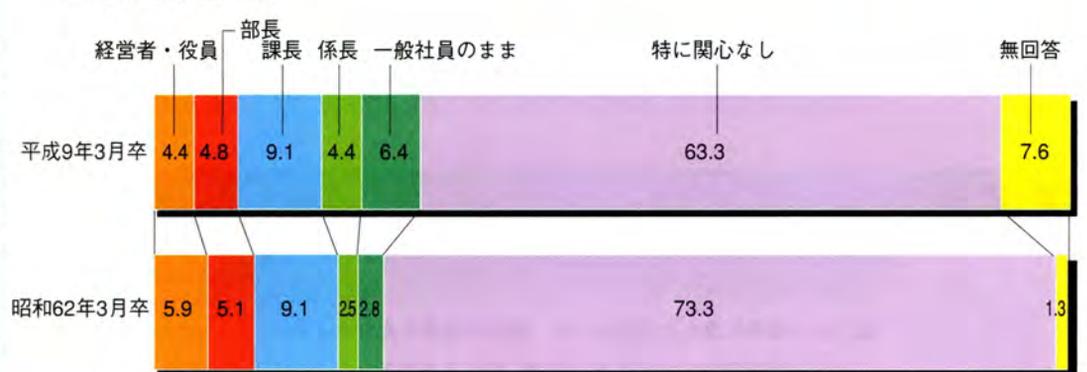
「'97年3月卒大学生の就職実態調査」(平成9年・リクルートリサーチ)

(単位: %)

●昇進意欲/四大男子



●昇進意欲/四大女子



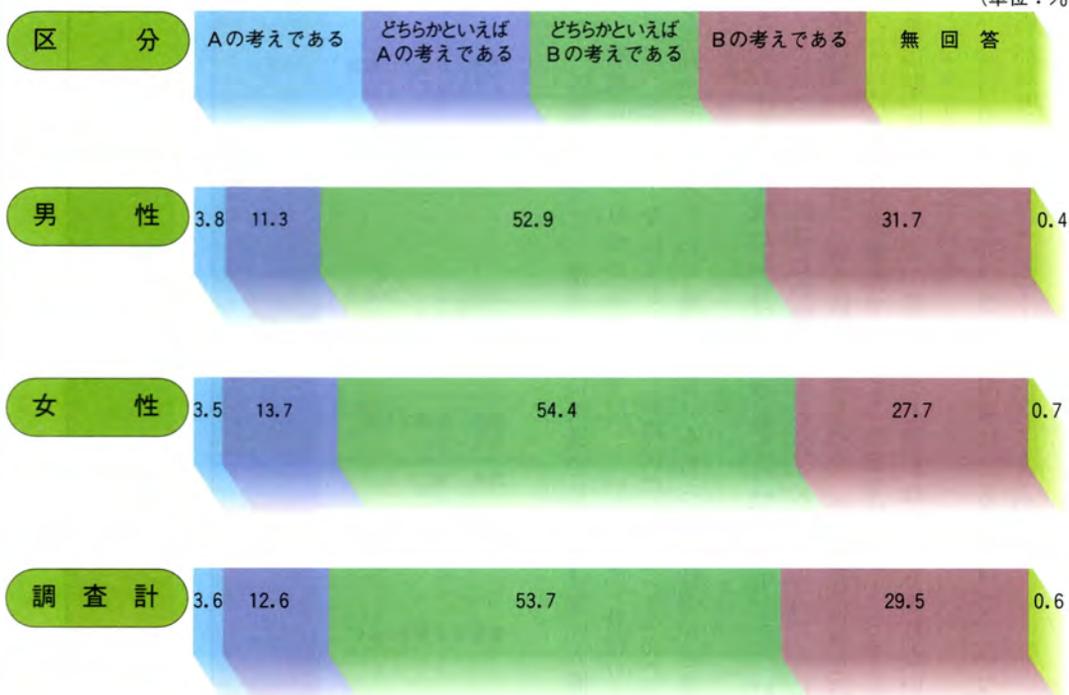
・「将来どの地位まで昇進したいか」については、男子は「経営者、役員」が四〇・七％で最も多かったが、「特に関心なし」が六割で最も多かった。女子は「特に関心なし」が六割で最も多かった。

・これを十年前と比較してみると、男子は「特に関心なし」が一五・一ポイントと大きく増加、一方、女子では一〇ポイント減少していることがわかる。

生活意識 (社会本位か自分本位か)

「団塊ジュニア世代の就労意識に関するアンケート調査」(平成7年・ライフデザイン研究所)

(単位：%)



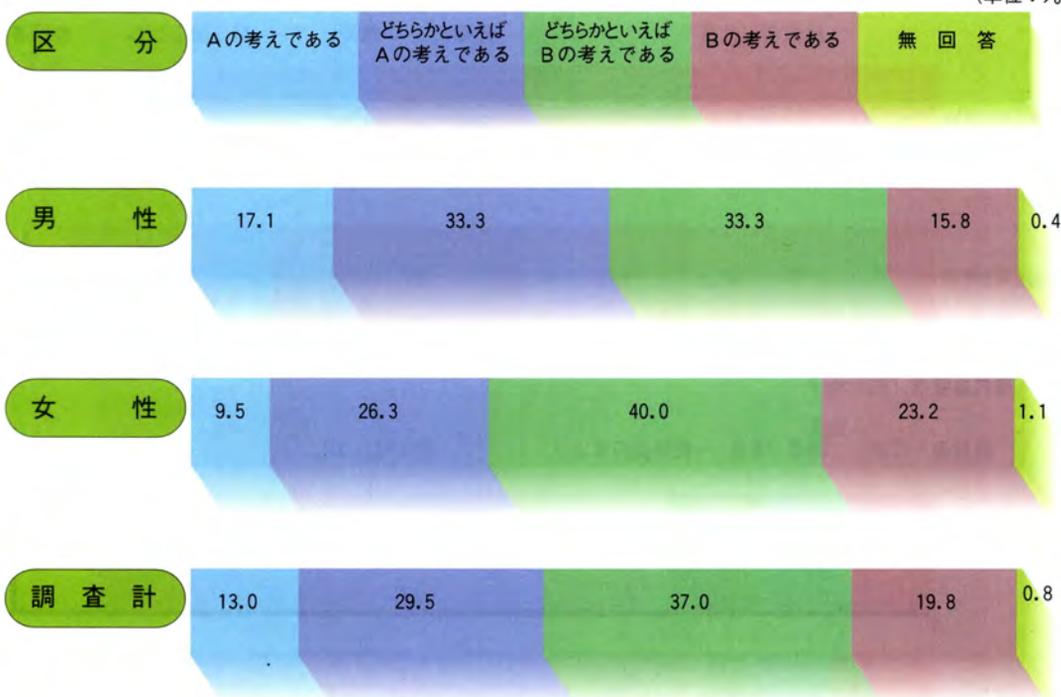
(注) A：自分の生活を充実するよりも、社会のために役立ちたい。
B：社会のために役立つよりも、自分の生活を充実させたい。

・二十〜二十四歳の男女の生活意識をみると「社会のために役立つよりも自分の生活を充実させたい」と考える人が男女とも八割を超えていた。

生活意識 (現在志向か将来志向か)

「団塊ジュニア世代の就労意識に関するアンケート調査」(平成7年・ライフデザイン研究所)

(単位：%)



(注) A：将来に備えた生活よりも、現在の生活を充実させたい。
B：現在のうちから将来の生活に備えておきたい。

・「将来に備えた生活よりも、現在の生活を充実させたい」と「現在のうちから将来の生活に備えておきたい」という相反する考え方については、ほぼ半数ずつを示す結果となっている。

若者と仕事

元気がいい？

大学時代は山登りに明け暮れていた僕も、社会人になってはや三年目だ。学生だった頃は、たとえ会社に入っても、仕事は仕事、趣味は趣味と割り切るつもりだった。仕事はあくまでも、自分の好きなことをやるカネと時間を確保するためのもの。それを生きがいにするなんて、とても考えられなかったな。

というのは、親父を見ていて、いやだったからね。まさに絵に描いたような仕事人間、というよりは会社人間だったから。いや、まだ現役で働いているから、「だった」じゃなくて、現在進行形だけ。

でも、そうやって何十年も働いてきて、もうそろそろ定年近いのに、今では結局、窓際みたいなものだからね。あんなに会社のことだけ考えて来て、何なんだと思うよ。

今はともかく、僕が高校生だった頃なんかは、ほとんど家にいなかった。子どものことなんか知らん顔だし、お袋ともまるでコミュニケーションが取れていなかったし。それを見ていると、ああはなりたくなかったな。

会社で働くことが生きがいだなんて、そんな人生はつまらない、自分はまっぴらだつて、いつの間にかそう思うようになっていたな。

ただ、自分もこうして働き始めてみると、なかなか「仕事は仕事」とも割り切れないもんだな。まだまだ、人に言われたことをやるだけの仕事だけど、それでも責任は出てくるし、何かを任せられればやる気も出てくるし。そういう時は、気がつくくと残業も、自主的にやっているしね。

だけど、会社のために働くとか、会社に帰属するとかいうより、仕事も自分の人生の一部なんだから、どうせやるなら一生懸命やってやろう、という感じかな。一日の大半を仕事に費やしているのに、ただ給料をもらうためにいるだけだつていうふうには思うのは、それはそれでつまらない。

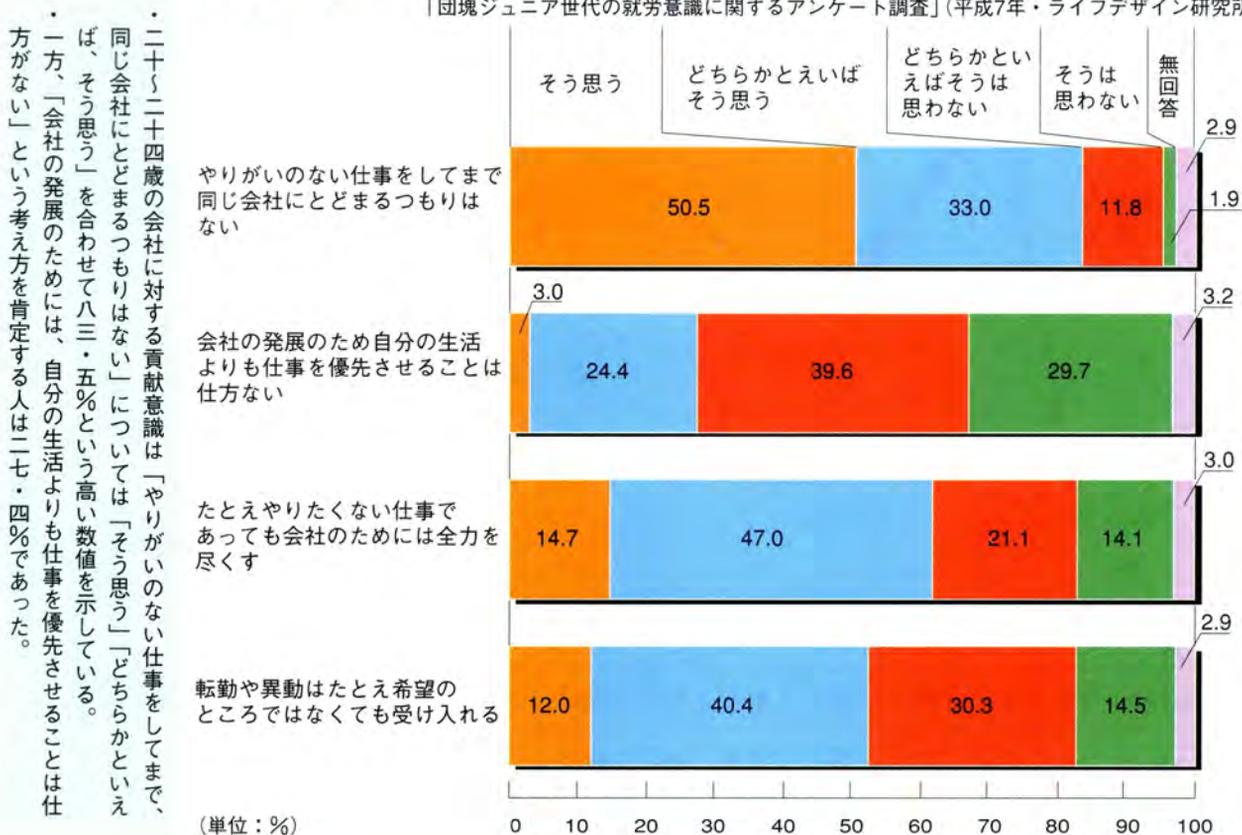
きちんと仕事をして、休みには山に行つて。それが本当の「仕事は仕事、趣味は趣味」なのかなと、近頃は思うよ。

夏には穂高に行くつもりだ。じゃあ、また。

(緑区 J・Hさん 二十五歳)

会社に対する貢献意識

「団塊ジュニア世代の就労意識に関するアンケート調査」(平成7年・ライフデザイン研究所)



・二十〜二十四歳の会社に対する貢献意識は「やりがいのない仕事をしてまで、同じ会社にとどまるつもりはない」については「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」を合わせて八三・五％という高い数値を示している。

・一方、「会社の発展のためには、自分の生活よりも仕事を優先させることは仕方ない」という考え方を肯定する人は二七・四％であった。